

**【総務省】 予算執行監視チーム活動レビュー(平成22年度 第1・四半期分) (案)**

<p>チームリーダーコメント (総評)</p>	<p>○大臣指示のもと、副大臣及び大臣政務官により構成する「総務省予算執行監視チーム」をいち早く立ち上げ、国民の視点に立って予算執行の効率化に向けた自律的な取組を推進</p> <p>○重要予算案件や独立行政法人・公益法人向け支出の事前審査などを通じ、事業の必要性、契約手続の適切性などについての問題点が明確化されるとともに、職員の無駄排除への意識も高まりつつあるものと認識</p>
<p>外部有識者コメント</p>	<p>○予算執行の効率性、効果の検証では、アウトカム目標の設定、定量的な効果、効率の測定、分析手法など工夫が必要(有川博氏)</p> <p>○予算執行のチェックには、決算統制の重要性とも関係するが、予算編成のあり方そのものを問い直す視点が必要(井手英策氏)</p> <p>○行政事業レビューについては、取りまとめて終わりではなく、政策との関わりの中で、事業の意義や有効性などについて、継続して検証していくべき(楠茂樹氏)</p> <p>○事業評価に当たっては、エビデンスデータの蓄積や、長期的な効果測定が必要な事業については、ロードマップの作成による毎年の指標の明確化が重要(須藤修氏)</p>

PLAN		DO
①	予算監視・効率化チームの定例会合の実施	<p>【開催日】 平成22年5月19日</p> <p>外部有識者出席のもと予算執行監視チーム会議を開催し、行政事業レビュー・公開プロセス、予算執行計画などについて審議</p> <p>なお、上記会議のほか、4月22日に予算執行監視チーム政務二役打合せを開催</p>
②	予算執行計画の策定	<p>【公表日】 平成22年5月19日</p> <p>【公表ホームページアドレス】 <a href="http://www.soumu.go.jp/menu_yosan/kanshi.html#no4">http://www.soumu.go.jp/menu_yosan/kanshi.html#no4</a></p>
③	支出負担行為又は支出に関する計画の策定と進捗管理	<p>【計画立案対象経費】</p> <p>重要予算案件、補助金等、庁費及び旅費</p> <p>【進捗管理】</p> <p>計画の進捗状況について、四半期毎に取りまとめたうえ、公表</p>
④	予算執行上の重要な決定等についての事前審査の実施	<p>【事前審査の対象】</p> <p>以下の案件の予算執行(調達契約、補助金交付決定等)について、政務による事前審査を実施</p> <p>○重要予算案件</p> <p>○独立行政法人及び公益法人関係支出案件</p> <p>事前審査は、予算執行の「必要性」、「有効性」、「効率性」、「契約の適切性」等の観点から実施</p>
⑤	行政事業レビューの実施	<p>【行政事業レビュー対象事業数】 183事業</p> <p>【公開プロセス実施日】 平成22年6月3日、4日</p>
⑥	国民の声の受付・対応	<p>【国民の声の受付体制】</p> <p>インターネット(HP)または郵送により、広く国民の声を受付</p> <p>なお、少なくとも年1回は、国民からの声の状況と、これらへの対応・改善結果を取りまとめ、公表</p>
⑦	予算執行の効率化等に向けた職員参画向上等の取組み	<p>【職員からチームに対する改善等の提案制度】</p> <p>メール等により、広く職員からの意見・提案を受付</p> <p>【予算に係る職員の意識向上を図るための教育・研修】</p> <p>予算執行監視に係る作業を通じて、必要な知識・技術の修得を図ること等により、予算執行の効率性向上に努める。</p>
⑧	予算執行の情報開示の充実	<p>【委託調査費、タクシー代についての情報開示】</p> <p>支出状況について、四半期終了時から45日以内を目途に公表</p>
⑨	その他の取組み	<p>外部有識者の出席のもと開催する定例会議のほか、月1回程度、政務二役による予算執行監視チーム打合せを開催することとしている。</p>

**CHECK—ACTION**

- 重要予算案件の事前審査、チーム会議などを通じて、以下のような課題が明らかとなり、引き続きその改善に取り組む
- 契約における「一者応札」の問題が明らかとなり、実質的な競争性の向上を図ること
  - 予算執行のチェック、行政事業レビューなどの結果を、概算要求に的確に反映させ、政策のPDCAサイクルのアクション機能の強化を図ること
  - 外部有識者の新たな視点から、事業の合理性、有効性等についての説明責任が求められることなどを契機に、国民の視点に立って、改めて政策を見つめ直すこと
  - 行政事業レビュー結果については、政策評価へ反映するとともに、継続してフォローし、予算の効率的使用に努めること